



第7回

神戸女子大学看護セミナー

\Theme/

職種間、施設間の 連携を促進する実践コミュニティ

令和5年 2月23日(木・祝)

10:00~12:00

遠隔 (Zoom) と対面を組み合わせた ハイブリット方式

今回の看護セミナーでは、2名の専門看護師を招聘します。質の高い看護ケアを広めるために、多職種あるいは施設間の交流を促進してきた事例をお話し、コミュニティ・オブ・プラクティスは、どのようにコミュニティの看護実践力を高めるのかを考察していきます。参加頂いた方それぞれが、施設での多職種あるいは施設間交流の在り方を振り返り、連携促進のための工夫についてディスカッションできる機会にしたいと考えます。

参加費
無料

パネルディスカッション「職種間、施設間の連携を促進する実践コミュニティ」

コーディネーター／横内 光子 (神戸女子大学大学院看護学研究科看護学専攻 教授)

パネリスト／米田 昭子 (山梨県立大学 看護学部・看護学研究科 教授
エンボディメントケア看護研究会会長/慢性疾患看護専門看護師)

「エンボディメントケア看護研究会の取り組み」

小枝 美由紀 (たまつ訪問看護ステーション/在宅看護専門看護師)
「多職種(訪問看護師とヘルパー)の与薬に関する連携モデルの構築」

申し込み方法

参加をご希望の方は、QRコードから申し込みフォームにてお申し込み下さい。



Zoomアクセス方法

参加申し込み頂きますと、自動でZoomのIDとPWが送信されますので、そちらよりアクセス下さい。Zoomの登録等は不要です。

申し込み締め切り日

令和5年2月22日(水)

第7回 神戸女子大学看護セミナー

〔テーマ〕 職種間、施設間の連携を促進する実践コミュニティ

プログラム

- 10:00 開会の挨拶
神戸女子大学看護学部学部長 洪 愛子 教授
- 10:10～12:00 パネルディスカッション
「職種間、施設間の連携を促進する実践コミュニティ」
コーディネーター／横内 光子 (神戸女子大学大学院看護学研究科看護学専攻 教授)
パネリスト／米田 昭子 (山梨県立大学 看護学部・看護学研究科 教授
エンボディメントケア看護研究会会長/慢性疾患看護専門看護師)
「エンボディメントケア看護研究会の取り組み」
小枝 美由紀 (たまつ訪問看護ステーション/在宅看護専門看護師)
「多職種(訪問看護師とヘルパー)の与薬に関する連携モデルの構築」
- 12:00 閉会

講師紹介

山梨県立大学 看護学部・看護学研究科 教授
慢性疾患看護専門看護師
エンボディメントケア看護研究会会長
よねだ あきこ
米田 昭子

兵庫県立大学大学院看護学研究科博士前期課程終了後、CNSとして臨床で慢性疾患看護のスペシャリストとして活動を続け、2013年から山梨県立大学看護学部・看護学研究科にて、学部生の教育、及び、慢性疾患看護専門看護師の養成に携わっている。2021年聖路加国際大学看護学研究科博士後期課程修了。糖尿病看護を専門とし、あいまいな長い療養に身を置いている糖尿病の人が、病いとうまくつき合っていくことを助ける看護を探究している。2005年から本学名誉教授 野並葉子らと、実践コミュニティの考え方をとり入れた「糖尿病患者へのエンボディメントケア」の開発に携わり、組織を超えた高度看護実践の波及に取り組んできた。2022年4月からエンボディメントケア看護研究会会長に就任。

たまつ訪問看護ステーション
在宅看護専門看護師
こえだ みゆき
小枝 美由紀

兵庫県立看護大学看護学部看護学科卒業後、2006年より兵庫県立がんセンター整形外科・脳神経外科病棟勤務。2012年兵庫県立大学大学院看護学研究科博士前期課程修了後、兵庫県立大学看護学部在宅看護学助教。2018年よりたまつ訪問看護ステーション勤務。2020年在宅看護専門看護師資格取得。2022年兵庫県立大学大学院看護学研究科博士後期課程修了。神戸市西区で自立支援から看取りまで、様々な在宅療養者への訪問看護を実践しながら、在宅におけるコミュニティ・オブ・プラクティスを取り入れた多職種連携についての研究に取り組んでいる。

神戸女子大学大学院看護学研究科看護学専攻
看護実践デザイン・情報マネジメント分野
教授

よこうち みつこ
横内 光子

大阪大学大学院医学系研究科保健学専攻博士後期課程修了。名古屋大学大学院医学系研究科・減災連携研究センター准教授を経て、2016年4月より神戸女子大学看護学部看護学専攻教授、2019年4月より大学院看護学研究科看護実践デザイン・情報マネジメント分野教授。専門は、成人看護学、ヘルスケア・サービス・マネージメント。「よりよい看護を提供するには?」というテーマについて、「よい看護」の定義や評価、提供

プロセス、提供システム、人材育成、制度化など、多面的に分析し、変化する時代の看護実践をデザイン(常にクライアント・対象者を中心に考え、目的を見出し、目的を達成する様々な方法を考えて実現化)するための研究と人材育成を目指して活動中。その一貫として、現在大学院でコミュニティ・オブ・プラクティスの看護への活用について取り組んでいる。